

平成 27 年度 第 2 回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 平成 27 年 10 月 8 日（木） 午後 4 時から午後 6 時 15 分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員 16 名
松本久介委員、永森常次委員、安達行成委員、野原教正委員、
三谷直樹（島田委員代理）林則雄委員、池田恵里子（蟹野委員代理）、
長尾治明委員（委員長）、石黒厚子委員、長谷川邦子委員、
山田栄子委員、上埜慎也委員、野村玲子委員、宮下直子委員、
沖田光弘委員、中野ミチ子委員
○行革推進本部 10 名
田中市長（本部長）、高田教育長（副本部長）、長澤市長政策室長、
高山総務部長、杉村民生部長、米田産業経済次長、大西建設部長、
豊川教育部長、森田地域包括医療・ケア局長、清水議会事務局長
○事務局（行革・施設再編課）5 名
上口行革・施設再編課長、
石崎施設再編係長、吉田副主幹、長岡行革推進係、野村主査
4. 欠席者 ○委員 2 名
中嶋與四雄委員、本多峰子委員
5. 傍聴者 なし
6. 議題 1) 公共施設再編計画策定作業について
2) 第 2 次行政改革実施計画の進捗状況について
3) 施策・事務事業マネジメントシートの公表について

○開 会 午後 4 時

【行革・施設再編課長】

ただ今より、平成 27 年度南砺市行政改革推進委員会を開会いたします。委員の皆様には、何かとご多用のところをご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は、行事の多い日となっており、皆様には大変無理な日程となってしまったことを、深くお詫び申し上げます。このことから、本日の会議には、委員長のお許しをいただきまして、代理での出席をお願いいたしましたので、ご紹介します。島田副委員長の代理として、井波地域審議会の三谷直樹様と蟹野委員の代理として、福光地域審議会副会長の池田恵里子様です。よろしくお願ひいたします。また、中嶋與四雄委員、本多峰子委員につきましては、欠席で連絡をいただいています。なお、出席委員及び市側の出席者については、お手元の座席表のとおりとなっています。それでは、開会にあたりまして、本委員会の 長尾委員長からご挨拶をいただきたいと思います。

○委員長あいさつ

【委員長】

今回はいつもと違って午後の遅い時間に集まっていただきありがとうございます。第2回目となるが、本日の協議事項として3つある。公共施設の再編計画の策定については、今後具体論に入ると揉める要素が多々あると思うが、みなさんご存じのように人口が減少していく中で歳入が思うようにいかなくなっている。支出をどう削減していくかが大きな課題となっており、思い切った削減が要求されている。施設の削減の話となると一般的に、総論は賛成、各論で利害関係の話になり反対の方向をたどることが多いと思うが、これからの行政を地域がよく理解し、協力していかないと将来の南砺市がもちこたえていけるかという深刻な問題になると思う。その中で、施設のあり方、機能、経費を関係者だけでなく市民にも情報発信して理解していただく工夫が必要である。情報の共有によって一緒の土俵の中で考えていくことが大切である。もちろん議会議員の理解も得ながら、どのように地域経営をしていくかが強く問われている。今日の議題の中には公共施設がテーマとしてあがっているが、道路などのインフラの整備も大きな課題になると思う。インフラ投資の部分でどう考えていくかも今後議題にのってくると思う。インフラと公共施設の両側面でどのように削減を図っていくか、地域の持続性を考えていく上で避けて通れない課題だと思う。今日はこのような大きな課題があがっているので、忌憚のない意見をいただきたいと思う。これからの世代が南砺市に住み続けたくくなるような夢のある将来を目指すためにも、大きな決断を下さなければいけない時期にあると思う。各委員の協力を得ながら議事の進行に勤めたくよろしくお願いします。

○本部長【市長】あいさつ

【行革・施設再編課長】

続きまして、南砺市行政改革推進本部長の田中市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】

本年度の第2回目の委員会を開催ですが、大変お忙しいスケジュールの中でお集まりいただきありがとうございました。私から現状をお伝えすると、南砺市行政改革本部会議、その下の幹事会等で議論を積み上げたものをこれから示していくことになる。南砺市には、議会基本条例があり、重要な案件については、議会の議決をいただくことになっているが、9月の定例会で大きな二つの計画が認められた。ひとつは公共施設等総合管理計画で、総務省から自治体が持っている施設をどのような計画でどのように管理していくのか地域で考えなさいということで作ったもの。もうひとつは、地方創生、総合戦略の基本目標、人口ビジョンについて議会で議論し、認めていただいたもので、この2件については、すでに国に提出した。特に公共施設の総合管理計画では、市全体の施設を把握するための白書を作っている。このまま維持存続していくとどうなるか、みてみると旧4町4村と同じ

ような施設をあり、他の市と比べると倍くらいの面積がある。30年間で2200億円ほどの維持管理経費がかかるので年間で70億ほどかかる。これでは、全てを維持存続させることはできない。では、どれだけのスケジュール、短期中期長期に分けて、市のあり方を考えていけばよいかというのが南砺市公共施設等総合管理計画である。その下に位置づけられるアクションプランが南砺市公共施設再編計画であり、今後、みなさんに議論いただきたいところである。過日新聞で市の財政状況が記事に載せられており平成26年度の実質公債費比率が7.2%だった。合併まちづくり計画を進めて11年目になるが、このあと人口問題や施設についてスピードアップして考えていかなければならない。財政数値では今のところは順調に進んできたが、すでに普通交付税の減額が始まり、5年間でまだまだ減っていく。国勢調査が今年度行われているが、人口が減っている部分でも交付税が減らされていく。特別交付税についても計算の仕方が変わってきており、来年以降数億円減らされていく。国も財政状況が厳しいのが現状である。市の財政状況もみながら、なおかつ未来に向かっての総合戦略を実行していかなければ、机上の空論になってしまう。行政改革と総合戦略は、バラバラではなく、ひとつとして断行していくことが大変重要になる。ただ、これまでの施設を全て壊そうというのではなく、民間でも活用できないか、また新たな形が可能か考えていかなければならないし、もっと奇抜なアイデアもあると思う。この後も委員のみなさん、地元の地域審議会でも丁寧に説明し、理解をいただきつつアイデアも出していただきながら進めていきたい。また、議題としては、毎年報告している第2次行政改革実施計画の進捗状況、事務事業評価についても説明する。限られた時間であるが、みなさんの知恵とアイデアをいただきたくよろしくお願いします。

○議事

【行革・施設再編課長】

それでは、議事に入らせていただきますが、ここからの進行は委員長にお願い致します。

【委員長】

では、これから議事に入ります。はじめに、協議事項と致しまして「公共施設再編計画策定作業」について事務局から説明願います。

〔事務局から説明〕

【委員長】

事務局から説明いただいた。質問、ご意見など、どなたからでも結構ですので、よろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。

【A 委員】

資料1 基本的な方針では「計画策定にあたって留意点」の中で、「将来にわたり必要

な行政サービスを提供するために、サービスの質や量・・・」とコスト削減につながる話だと思うが、具体的にどのようなサービスを削減し、残すのかが分かれば、公共施設についてもどの削減をすべきか自ずと分かるのではないか。また、30年間で3万2千人に減少すると推計されているが、総合計画での推計ではどうなっているか。さらに、金額的な説明はあったが、財政的に公共施設の削減により何割くらい財政の縮減につながるのか、ほかの部分でも削減しないと必要なサービスを残せないと思う。

【行革・施設再編課長】

サービスは分類ごとに、量と質の両面でどうあるべきか検討することが大切だと考えている。

【A 委員】

今後の説明会でも同様な質問があると思うので、分かりやすく説明すべきである。

【市長政策室長】

民間で出来る事は民間に任せるということであり、全てのサービスをやめるということではなく、施設を集約して、その施設でいろんなサービスを受けられるようにしたい。その見極めをみなさんの意見をお聞きしながら決めたいと考えている。

【施設再編係長】

人口の見通しについては、同じレベルで地方総合戦略の人口ビジョンもたてており、総合計画とも整合性はとれている。他のサービスとの効率化も当然取り組んでいかなければならず、管理計画を作る上ではそこまで踏み込んでいないので今後、そのような取組を進めていけばより多くの施設を残すことができると考えている。

【B 委員】

アンケート結果が少し気になる。統廃合すべき施設で林業施設があがっているが、山が荒れると大地が荒れる。林業施設は短期に譲渡とあるが、市民に林業施設も大切なものという認識してもらえよう話した上で、譲渡などを進めていただきたい。

【行革・施設再編課長】

アンケートでは、廃止という意味での数値なのか、統合の意味なのか分からないが、言われたような考えも踏まえて取り組みたい。

【C 委員】

3千人を抽出してアンケートを行った結果、回収率が悪いのではないか。利用の頻度についていえば、例えばテニス場、野球場は、冬は使えない。また場所的なこともあり、施

設がある地区ではよく利用され、施設がない地区ではあまり利用されない数値が出るのであまりよい質問方法ではないと思う。経済効果でいえば、イオックスアローザなどは相当数が利用されている影響があると思う。アンケートの結果を十分考えていただきたい。

【行革・施設再編課長】

アンケートは、地区年齢別に無作為に行った。人口が多いところは多く届いている。年齢でいえば、若い人は回収率が悪い傾向になるので、若干多く配分した。3ページの利用の頻度、「月一回以上よく利用する」の平均値では、全国的にみても1割程度が利用されているのが現状である。年に数回も含めると平均で21.5%であり、全国と大きな差異はないことが分かった。

【D 委員】

児童館については、中期に単館とすると書かれている。井波は新しくなっているが載っていない。児童館は将来統合するのはあまり考えにくい。保育園については、短期的に5年以内に指定管理にする、公務員でなくなるまたは民営化を検討すると踏み込んで書かれているが、各地区で強い反対が出るのではないかと心配である。小学校の学校給食は民間委託にするのではなく、地産地消すべきであると考えるが、学校給食は将来、直営か民間委託にするのか踏み込んで記載するかしないか気になる場所である。公民館は、社会教育法でいうと公立の学校区単位でつくることが基本になっていると思う。しかし、市全域で、昭和の合併の村単位に公民館が設置してある。それぞれの公民館はがんばっているが、人口減少の影響で、今年は書道教室をやめた等、単館でできることが限られてきている。合併前はカルチャースクールは中央公民館で実施していたが、現在は中央公民館が市でひとつしかない。今後も31の公民館を維持していくのか。単独公民館を作ってほしいところもあると思うがどのような考えか聞かせてほしい。

【市長政策室長】

児童館では、基本的に3つ新しいが、はたして児童館が単館としてあるべきなのか、児童図書館機能を加えられないか、子育て支援センター的な施設と複合化できないか等を検討したい。保育園については、統合保育園を計画する際に、統合検討委員会で民営化も含め検討されていたと思うが、民営化すべきなのか、指定管理者制度を導入すべきなのか、一部だけでも進めるべきなのか無理なのか、早めに検討しはっきりさせるべきだと考えている。五箇山の保育園については園児数の推移もみながら考えていくということである。学校の給食について、学校は基本的に残す。今回は公共施設の再編に関する議論であり、学校の運営方法については別の場面で検討していくことになる。公民館は、各31自治振興会に一つずつあるべきだと考えている。運営方法については、講座や習い事をまとめてどこかが担当するか等、工夫して取り組んでいただきたい。公民館がないところについては、既存の施設を有効利用できないかも含めて検討する。議決いただいた事項には、新た

な施設は原則建てないこととしているので、要望があれば、既存施設の有効利用も考えたい。災害時の避難施設でもあり、今のところは31残す検討案である。基本的に対応時期の欄に○がついている施設は、これでいいのか、維持すべきなのか等、いろんな方の意見を聞いて素案を作りたい。その上で、1月に推進委員会、地域審議会、住民説明会を経て最終案を議会に提出したい。この施設はこうした方がよい、といった意見を多くだしていただきたい。今の説明もそのままになるということではない。

【A 委員】

民間でできることは民間にとの説明があったが。民間でもできる施設の中でも、地元としては、公の施設として維持して欲しいものがある場合はどうなるか。

【市長政策室長】

大原則として、公共施設としては、半分ほどに削減しないと30年後の孫の世代が困るということである。市が維持すべき施設は市がすべきなのだが、いつまでやるのか、耐用年数までなのか、更新はするべきなのか、30年間を見渡して結論を出さなければならない。25万㎡の削減が不可能なら、将来の孫たちのために維持管理にかかる費用を積み立てる必要がある。これも含めてトータルの考えていくことにある。全ての施設を残して欲しいと望まれるが、それでは財政が成り立たない。人口が減るので、三つある施設を増築などして一つにまとめることができないか等を議論していきたい。

【E 委員】

気象災害、ゲリラ豪雨がいつ起こるか分からない状況の中で避難所の位置づけがどうなっているか、どのように維持していくか、安全安心が求められるので、耐震の面でもしっかりお願いしたい。

【市長政策室長】

基本的に現在避難所となっている箇所については残すことになると思う。もしその施設を削減することになれば替わる施設を指定することになる。残す施設をいかに災害時にも活用できるかも含めて検討していくことになる。

【E 委員】

どの施設が該当するのか。明示されていなければ説明会などで安心安全の確保を示せないのではないか。

【市長政策室長】

説明会では、どの施設が該当するか印をつけて提示したいと思う。

【F 委員】

住民のみなさんに残すか残さないか説明していくと、今の自分にとって必要かどうかの意見が出されると思うが、それだけでは進まないところもあると思う。これはなくなっても、複合化によって代用できると示されたり、3町村の中でひとつ残して仲良く使っていくことも考えられる。それが示されないと、住民は残すか残さないか素直に言えないと思う。複合化の案があれば、賛同を得られる場合もあると思う。これは災害時に使いたいという要望もあると思う。市としては災害時にこれを使いたいと示せば納得がいく。文化ホールであれば一つあればよいなど、総合的な説明があってから個別の説明がないと住民としても納得いかないと思うが、どのように進めていくのか。

【市長政策室長】

言われるとおりである。体育館、文化施設など分類ごとに検討していくことになるが、5万人～3万人程度の市なら一つであるべきところが、今は三つある。例えば図書館なら、基本的に一つに集約がいいけれど、なかなか集約しきれないだろうという意見もでてくると思う。複合化には、大きい複合化のほかに、小さい地域の中でよく似た施設が2つある場合の統合など、いろいろなパターンがありうる。体育館は一箇所でもいいかもしれないけど、今まですぐ行けた施設がそうでなくなることもある。理論的な施設の削減と実際にはどうなのか、ということ、施設ごとに具体的に意見をお聞きしたい。やっぱり体育館は4ついるとか、更新時期までは必要だとか、説明会に来ていただいた方に率直な意見を聞きたいと考えている。

【F 委員】

今までは、歩いて行ける距離に施設があったのに、統合されると、子供一人ではいけない距離になるかもしれない。その場合、行政は住民の足を用意するのか、そこまでは出来ないのかも問題になってくると思う。

【市長政策室長】

施設にいくらかかっているかが分かるコスト表はこれまで明らかにされていなかったもので今回示している。全ての施設を巡回する公共交通を整備することにはならないと思う。それよりも、利用者やコスト、数がいくつ必要か、残った施設で災害時にどこまで安全を確保できるか。どの避難所に逃げればよいのか考えると、逆に施設は必要なのではないか、という議論になるかもしれない。公共施設再編計画は、一度決めたら最後までいくものではなく、人口や財政状況の推移をみながら5年に一度しっかり見直しを行う。

【F 委員】

災害の話でいうと、先日みたNHKの放送で、公民館を避難所にすると逆にみんなが助からないこともあるという番組があった。災害は何十年か何百年に一回しか発生しないので、

そのために公民館を維持するのではなく、災害時のシミュレーションで、災害時にこの人の家に避難すれば助かる、という例があった。あらかじめ、3階建ての大きな広めの家の人に、災害時に受け入れをお願いすればよいというのがあった。南砺市には大きな家が多いので可能だと思われる。

【総務部長】

災害対応で、どの人が、どのように避難すればよいか、については地域の自主防災の中で住民の方に検討いただく作業を進めている。

【G 委員】

対応の欄に、「あり方を検討する」と書かれているものがあるが、検討は具体的にどのようにするのか。また、庁舎は翌年度までに検討することとなっているが、現在も検討しているのか。

【市長政策室長】

庁舎については現在検討を進めているところである。統合するとしたらどのように統合すればベストなのか、年度内に方向性を示したい。

【行革・施設再編課長】

あり方の検討については、類似施設が多い場合にそのような表現となっている。長期で取り組むべきことを、5年以内の短期で協議していくものであり、委員会などを作って検討していくことになる。

【D 委員】

文化財施設でいうと、福野の喜知屋は掲載されているが、文化財指定された井波の齋賀家は掲載されていない。城端織物会館、旧大鋸屋小学校体育館が載っているが、国の指定文化財なのに、民間に譲渡となっていたりしている。吟味する時間がなかったのか。

【行革・施設再編課長】

旧大鋸屋小学校体育館は、載っている。この表は平成26年3月31日現在の施設に関するものであり、次期再編計画では、平成26年度、平成27年度中に取り壊しとなった施設は削除し、建設された施設は追加することになる。文化財は、基本的に市が所有することになるが、地域に譲渡する方法もあるのではないかと考えている。旧大鋸屋小学校体育館は14ページの普通財産に載っている。

【B 委員】

保育園の統廃合の際に、民間委託等についても検討したとの説明があった。城端さくら

保育園は、合併前の時点から統合することで地域の方による喧々諤々の協議を経ており、丁寧に説明された方がよいと思う。

【市長政策室長】

そのようにしたい。ありがとうございました。

【委員長】

この他にも何かあれば、FAX やメールで事務局へ提出いただきたいと思います。では、続きまして、第2次行政改革実施計画の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

[事務局から説明]

【B 委員】

39 ページに女性委員の登用が A 評価となっている。職員の登用についても、例えばこの会議の当局側の席にも、もっと女性が多ければよいと思う。

【総務部長】

市としても積極的に女性を登用していきたい。

【H 委員】

24 年から 28 年の進捗状況の報告であるが、進捗が悪いのは必要性がなく、悪いのか、今後は取り組まない事項として見直しするのか、具体的になぜ進捗が悪いのか吟味されているのか。

【行革推進係長】

1 枚目は進捗の概要が分かる表にしてあるが、2 枚目以降で、平成 28 年度に目標値を設定したそれぞれの指標をピックアップし、進捗状況と、今後の取組について記載している。中には、ホームページの形態など、時代や環境の変化により進んでいないものもあり、各担当課にもう一度分析させている。

【委員長】

では、次に、施策・事務事業マネジメントシートの公表について、事務局から説明願います。

[事務局から説明]

【委員長】

ただいま、事務局から、施策・事務事業マネジメントシートの公表について説明があったので、ご質問・ご意見等をいただきたいと思います。

【G 委員】

シートの作成について、予算のついていないものは作成されていないとの話だが、事務の効率化の観点からは、作成すべきではないか。

【行革推進係長】

当初は、それも含めて始めたが、いろいろな場面で利用していきたいこともあり、予算要求や決算審査に活用している。シートの数が多いと中身の精度もあがってこないこともあり、どこを削ってどこに活用していくかを模索する中で、今回はこのような形とした。今後、都合が悪いようであれば、方式、様式など南砺市流に変更していきたい。

【市長政策室長】

事務事業マネジメントシートは予算をベースに作成しているが、施策マネジメントシートでは、事務の効率化等をチェックしており、財政面と施策面を分けたとも言える。

【委員長】

公表されて3回目になるので、問い合わせがあるかと思うが、継続が効果を生むので、改善を進めていただきたい。その他の項目について、事務局から連絡ください。

【行革・施設再編課長】

今回説明した次期公共施設再編計画の策定については、順次、地域審議会や住民説明会等での意見を聞いた上で計画の素案を作成する。また、第三セクター改革プランの案件も含めて12月から来年の1月頃に行政改革推進委員会を開催する予定であり、詳しくは、日程が決まり次第ご連絡したい。

【委員長】

全体を通して意見があれば伺いたい。

【I 委員】

市の高齢化、人口減少の状況からすると、実際はもっと厳しく見つめていく必要があるのではないか。

【市長政策室長】

公共施設等総合管理計画は、30年後の孫や曾孫が安心して暮らせるような財政状況を見越して公共施設の数を見越したものである。今度策定する公共施設再編計画では、現在

利用している人が、どこまで将来のために施設を再編できるか、考えるものである。痛みを伴う取組にならざるをえないものであるが、ありがたい言葉をいただいたように、早く取り組めば早く取り組むほど、経済的には有利である。みなさんと相談しながら、早められるものは早め、残すものは残すこととし、満足していただかなくても納得してもらえるような再編計画にしたいと考えている。

【C 委員】

早く取り組めば早く取り組むほど、人口減少も早まるのではないか。

【市長政策室長】

人口減少問題については、もう一方で議決いただいた、いかに人を呼び込むか、仕事を作るか、まちを作るか、という総合戦略と合わせて取り組んでいく。

【委員長】

では以上で、第二回目の推進委員会の議題が終わるが、公共施設の再編で私が思ったことを述べたい。施設の利用者数やコストは重要な指標である。地域で住んでいる方がどのような施設にどのような機能を持って欲しいか、ニーズや意向からも、施設の統廃合を考えて欲しいと思う。手段としては、統廃合や民間譲渡などやり方はいくらかでもあるので、機能としてどのようなことを施設に求めているか、明らかにする必要がある。避難所にしても、公共施設でなくても民家でも代替できる。地域の方が欲しているものを把握する必要がある。どんな暮らしをしてどんなことを公共施設に求めたいか、逆の方向からもアプローチしていただきたい。今日は活発な意見をたくさんいただいたので、事務局でしっかり反映し、公共施設の方向性を定めて欲しい。

【行革・施設再編課長】

長時間にわたり、ありがとうございました。手元に公共施設等総合管理計画の最終版を配布しているので、ご覧いただきたい。閉会にあたり、田中市長がご挨拶申し上げます。

【市長】

長時間にわたり、さまざまなご意見をいただきありがとうございます。それぞれの施設について30年のあり方を検討するにあたって、たたき台を示した方が、議論が深まるし、意見も出やすいこともあり、今回示した。また、いろいろな形で民間の力と行政の力を生かした提案がでてくることを期待している。世の中が変わってきたことにより、行政が行政の責任において行ってきた事が、今後は、財政状況も踏まえ、サービスをどう維持するのか、知恵を出さないとできなくなる。民間の活力を生かした方が、最終的に住民の満足度につながることもある。施設再編の課題を地域に投げかける場面が出てくると思う。「官と民で公の仕事を」という言葉が言われる時代になった。また、産官学などいろんな言葉

があるが、総力戦で公の仕事をすることを頭におきながら事業を進めていかなければいけないと思っているので、ご理解いただきたい。また、公共施設の再編のみが財政状況を良くしていくわけではなく、事業の見直しによる PDCA サイクルを行っている。新たな事業を始める場合は、何かを削って支出を抑えなければいけない。なおかつサービスをいろいろな手法で取り組んでいきたい。施設再編だけだと、人口が減り、暗くなる話があったが、逆に明るい将来を見据えたときに、何でもやめていくのではなく、これによって総合戦略にまだまだプラスにしていける。その仕組みづくりを同時に考えながら取り組んでいく。最終的にここは絶対守るべきこと、災害対策や小中学校や医療、保育、保育園の園児数、市立保育所の方向性の検討であるので、どういう問題、メリットがあるか担当が検討を始めている。この後、子供たちにとってどうプラスになっていくか。小中学校は、一段階目の統廃合が終わった。これからは、児童が減少していく中で、学力や部活動の議論をし、対応していかなければならないし、小中一貫の検討も始めている。山村留学も含め小中学校の今後あり方を前向きに検討している。自校給食は継続していきたいが、公か民か検討していきたい。今回お聞きしたご意見をまとめ、地域での対応の仕方を参考にして、丁寧に説明したい。その中で、さまざまな意見をいただきながら素案を作成するが、委員のみなさまにもご協力いただきたい。本日は、遅い時間まで協議いただきありがとうございました。

【行革・施設再編課長】

これもちまして、本日の南砺市行政改革推進委員会を閉会します。ご多用のところ出席いただき誠にありがとうございました。